

巻頭随想 いま、伝えたいこと

(四歴文研文庫)
七三五―七三六号

ソ連シベリア抑留者の貴重な記録

京都産業大学名誉教授 所 功

今年は、「終戦八十年」にちなみ、さまざまの慰霊祭などが行われてきた。今上陛下は皇后陛下と(愛子内親王も)、上皇陛下の例を受け継いで、広島・長崎・沖縄・硫黄島を巡拝されたのみならず、モンゴルまで訪れられた。

その機会に注目されたのは、先の大戦末期にソ連が「日ソ中立条約」を破って参戦し、侵略した満州などの日本兵・民間人を抑留して、強制的に極寒のシベリアやモンゴルに送り込み、過酷な重労働に従事させたことである。

このソ連(スターリン政権)によりシベリアやモンゴルなど数カ所に抑留されたのは、約六十万。その一割近くが死亡している。しかし、その実態は学校教育でもマスコミでも積極的にとりあげられていない。ただ、私は、昭和四十四年(一九六九)八月、郷里(岐阜県揖斐川町)の小川三雄氏(57)がサンケイ出版から出された書物により、貴重な具体例を知ることができた。

小川氏は私の父と同じ明治四十五年(一九一二)生まれ。

陸軍の大尉として満州で敗戦を迎え(大隊長)、ソ連軍に抑留されてシベリアの収容所を転々とさせられたが、日本人の矜持を貫き、ようやく昭和二十五年(一九五〇)春、最後の帰還船(高砂丸)で帰国している。

その後、郷里で洋装店を営み、教育正常化と地域振興に尽力し、平成十七年(二〇〇五)九十三歳で他界された。

その抑留体験記『天皇の踏絵』(B6判、三三頁)によれば、五年間の前半は、飢えと寒さと重労働などに苦しめられたが、後半にはソ連に迎合する日本人が画策する自己批判の強要(吊し上げ)が厳しさを増した。

それに対して小川大尉たちは、信望の篤い草地貞吾(くさちていご)元関東軍参謀を中心にグループを作り「死を賭けた抵抗」を続け「頑張り通した」という。

その最たるものが、「天皇の踏絵」である。本書(二二〇頁前後)によれば、ソ連秘密警察や日本人煽動者などが、彼らの脅迫に屈服しない「反動」を呼び付け、ボール絵に描いた軍服姿の天皇陛下の絵を土足で踏むよう命じた。それに対して、小川大尉らは「天皇の踏絵をよけて通った」が、仲間の一人は「陥落した」という。

このように残酷な実態は、ほとんど知られていないようであるが、今後とも決して忘れてはなるまい。

藝林会 令和七年度 学術大会のご案内（予定）

テーマ 「御撰・御製をめぐる諸問題」

研究会

(一) 日時 令和七年十一月九日（日） 十三時三十分より（予定）

(二) 会場 京都産業大学むすびわざ館ホール（京都市下京区中堂寺命婦町一十）

Zoomによるオンライン視聴も可

(三) 内容 宇多天皇の御記と御遺誠

後鳥羽上皇の勅撰「新古今和歌集」

後水尾・後西上皇と文芸・芸能（仮）

後桜町上皇と光格天皇―歌道教育をめぐる（仮）

相互討論「御撰・御製をめぐる諸問題」

所 功氏（京都産業大学名誉教授）

小林一彦氏（京都産業大学教授）

若松正志氏（京都産業大学教授）△

盛田帝子氏（京都産業大学教授）

司会 久禮旦雄氏（京都産業大学准教授）

※発表者・登壇者は追加・交替の場合があります。

申込先 大会参加希望者は、Eメールか葉書で、左記宛てにお知らせ願います。

京都の会場にて参加される場合は七月末日までに、Zoomにて参加される場合は十月末日までにお願います。

〒九二二―八五〇一 石川県野々市市扇が丘七―金沢工業大学内 清水節 研究室
電話 〇七六―二四八―八六九七 メールアドレス info@geirinkai.jp

※Zoomによる中継配信をご視聴される場合、大会の一週間ほど前までに、詳細情報と視聴に必要なURL・資料等をEメールにて配信します。